

令和6年度 千曲市健康づくり推進協議会 会議録

日 時 令和6年10月31日（木）13：30から14：50
会 場 千曲市役所 2階保健センター 集団指導室
出席委員 11名
欠席委員 2名
理 事 者 市長
事 務 局 健康福祉部長、健康推進課長、予防保健係長、母子保健係長、
保健事業推進係長、健康増進係長、健康増進係主任

（進行：健康推進課長）

1 開会

2 あいさつ 市長

3 自己紹介

（本協議会設置要綱第6条第2項により会議が成立していることを報告）

4 会議事項

（1）会長・副会長の選出について

会長に高澤尚能氏、副会長に塚田美智代氏、西澤美代子氏が選出された。

（2）令和5年度保健事業報告と令和6年度保健事業進捗状況について

事務局から説明

意見1）子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種について。今どのくらいの人数か、わかる範囲で教えて欲しい。

回答）具体的な数字は今持ち合わせていないが、予診票の請求数が一気に増えている。予算で確保した数をもう少しで超える状況になっている。

意見2）キャッチアップ接種はなぜ今年度で終わりなのか。

子宮頸がんでは年間約3,000人亡くなっている。比較的若い方がかかっており、子宮体がんは割とご年配の方がかかる。若い方が亡くなるということは少子化にも影響する。

予防接種に対しては厚生労働省に憤りを感じる。高齢者の肺炎球菌ワクチンも今は65歳時しか補助が出ないことになっている。国で面倒を見ている会社のワクチンを使っているが、これは接種してから5年経つと効力がガクンと落ちるのは科学的に証明されている。5年ごとに国が補助を出して全員が接種していただければ、肺炎にかかる可能性が極めて下がる。そうすれば医療費ももっと下がる。この国は、健康というか人の命にお金をかけてくれない国家ということが嘆かわしい。

意見3）SOSの出し方に関する教育を中学校でやっていることについて。

自殺対策、うつ病対策として子どものうちからこころの病気について知っておいてもらうことは非常に大事なことだと思う。

また、子どもたちに教育してほしいのが認知症。最近は三世帯で住むという家庭が非常に少なくなっている。高齢者と接する時間がお盆と正月ぐらいしかないということもある。少なくとも同居している家庭の中で、高齢者が認知症ぽいな、と察知できるのは孫だと思っている。認知症の教育に関しても、小学校・中学校でやっていただけると非常に良いのではないか。要は認知症高齢者に対する接し方がわかる子どもになってもらえると、大人になってからも続いていくと思う。

学校の先生方はお忙しいうえに負荷をかけてしまったら申し訳ないと思うし、新たに勉強もしていただかなければいけないので大変だとは思いますが、子どものころからそういう教育をしていただけたことが将来のためにも大切だし、日本のためにもなると思うのでお願いできたらと思う。

意見4) SOSの出し方教育はとても大事な取組みと思う。年代別自殺死亡率のグラフを見ても、20歳未満は、数は少ないがゼロではない。若いうちから小中高校どの年代でも自殺予防のためのSOSの出し方、相談の仕方についての取組みは大事になる。SOSの出し方教育は市内4中学校で行ったということだが、ぜひ小学校から、もしかしたら保育園からも必要な時代なのか。年代に合ったいのちの教育を考えていただければありがたい。

意見5) SOSの出し方教育で、情報発信の仕方を教えていただくことは非常に良いことだが、周りの大人が受け止め方を知らなかったらどうするのか、という疑問を持った。SOSの受け止め方はごく一部の人が知っていても、対応が間に合わないことがある。各家庭、保護者、祖父母もきちんと勉強しないと家庭内のギャップが生まれる。例えばLGBTQについても、子どもは勉強しているが祖父母は知らないというのが今の世の中。ぜひ大人も学ぶ体制を作っていただきたい。

意見6) 母子保健事業について。すくすく広場（フォロー教室）の対象が要フォロー児となっているが、どのような場合か。

回答) 乳幼児健診にて保護者から、集団の中にいられない、言葉が出てこなくて心配、という相談を受ける。そのような場合、専門の先生に言葉の相談をしたり、小さい集団の中で経験等を積みながら医療機関の受診が必要なのか、保育園へ通園することがプラスになるのか、というようなことを検討しながら支援している。

意見7) 母子保健事業の産後のケアについて。核家族化がますます進む中で、出産された方が、相談する人がいない、うつ病になってしまったなどの場合はどのような支援体制があるのか教えてほしい。少子化が叫ばれる中、出産には当然お金も必要だが、心のケアも非常に大事だと思うので積極的に支援してほしい。

回答) 母子健康手帳交付時から、保健師との面談を実施している。その中で経済的な不安があったり、シングルで育てる、出産後のサポートがないなどの場合は、担当地区の保健師が妊娠中から関わって支援している。このような場合を「特定妊婦」と呼んでいるが、その数は年々増加傾向である。

育児支援がない、育児の仕方がわからない、授乳がうまくいかないという場合は産後ケア事業をご利用いただき助産師や病院の支援を受けていただいている。また、産後ケア事業は産後うつ予防の目的もあり、通常7回までの利用のところ、心配なお母様方には保健師の面談をしたうえで、プラス7回、合計14回利用できる体制を整えている。

意見8) 地域でお母さんたちを支援している立場から。自分も千曲市で3人の子育てをしてきた。

まず産後ケア事業について。8年前、1人目の出産時はこの事業がなく、自分で助産所を探し電話をして母乳相談という形で利用した。2人目の時も多分まだ産後ケア事業はなかったので、自分でお金を払って通っていたが、今のような休息支援はなかった。今回、3人目の出産後は利用させてもらっている。

千曲市の方は「ながい助産院」に行く方が多いと思うが、なかなか予約が取れないという話を聞く。また、私が産後のお母さんを対象に開いている運動のクラスには、自分は産後ケア事業の対象なのか、利用してもよいのかという不安を持っている人がいる。みんなが対象といって良いと思うが、子どもが2人や3人いてアップアップしているのに自分は利用してはいけないと思っている人も実際にいた。多分、市の方から説明はしていただいているとは思いますが、妊娠中や産後は頭が働かなかったりするので、説明を受けても抜けてしまうことがある。利用したいけど利用できないという人もいるのかなと思う。

次に、子育て支援センターでは運動とか0歳児を連れて参加できるものがいくつかあるが、これも予約がなかなか取れない。上山田の方は予約は取りやすいが、更埴の方はなかなか取れないという話を聞く。それでも元気でエネルギーにあふれているお母さんや意識の高いお母さんは結構出かけて行く。でもエネルギーが無く、なかなか行かなくて、家に閉じこもっている人も実際にはいる。

経済的支援が必要とか、元々うつ病などがあるお母さんは市の方でしっかりフォローしていただいていると思うが、ギリギリのラインにいるお母さんが支援から落ちてしまう。ギリギリのところでがんばっていて、アップアップしている人が結構いるなどと思うし、自分もギリギリのところでやってきた時代があるので痛感している。

意見9) 乳幼児健診の受診者数を見ても少子化は確実に進んでいる。国全体の問題でもあるが、とにかく千曲市が出産して子育てをすることに関して環境が良いところになってほしい。ぜひその辺りに来年度予算をつけるような方向にしたい。困っている人を助けるといふより伸ばしてあげて、より住みやすい地域を目指していただきたい。

意見10) 乳幼児健診の受診者が減ってきたということだが受診率が高い。ただ、1～3人抜けている。受診をしていない人がいるということか、そこは心配。

また、受診率が高い乳幼児健診の場で、どんな悩みでもいいから相談してくださいねというような、専門の方が相談にのってくれるコーナーがあればいいと思う。幼少期に愛情を受けて育ってきた子は安心して入学してくるが、いろいろ抱えて入学する子もいる。虐待、ネグレクトなどは乳幼児健診のような定期的な健診で発見して、その後保育園や幼稚園とも連携して支援したというケースがあれば教えて欲しい。

回答) 健診に来られない1～3人の方は、重度の病気があり、こども病院等で定期的な受診したり入院されているという場合。主治医のところで発達も含めて診ていただいている場合は、保護者の希望で市の健診には来ないという選択肢もあるため、受診率100%にはならない。

虐待の関係や育児相談関係については、月2回予約制ではあるが、育児相談という形で保健師・栄養士・歯科衛生士が相談に対応している。また、健診の時も

各専門職が身長、体重、離乳食の悩みなど個別に指導している。今年の4月からこども家庭センターにおいて、こども未来課と健康推進課の母子保健係が担当となり、虐待の早期発見と支援のため家庭相談員とともに連携体制を強化している。出産育児に不安なケースについては妊娠中から早期に家庭相談員につながりながらサポートしている。

意見11) 自殺対策について。

ゲートキーパーを育成することで世の中の理解を深めていこうというのが方法論として積極的に取り入れられている。逆にそれに頼らざるを得ないという部分もある。千曲市自殺対策推進計画の基本施策にも重点施策にもゲートキーパー研修が中心的に位置づけられている。今年度の実績や今後の展開をどのように考えているか。

回答) 自殺対策推進計画の1次では248名のゲートキーパーを育成。今年度は高齢者のサロンで1回実施。今後は、年に1回開催する「こころの健康講座」を市職員向けにも実施したい。また、計画の重点施策の勤務・経営者への対策強化という点では、まだ着手できていない商工団体とも協力してゲートキーパー研修を広げられたらと考えている。

(2) 千曲市国民健康保険・後期高齢者保健事業について 事務局から説明

意見12) 人工透析の年間医療費が500万円以上で、心筋梗塞や狭心症のステント留置は200～300万円になると思う。国保のお金がジャブジャブ流れていってしまう。だからそこまでいかないうような予防をしていくことが大切である。ぜひこちらの事業も継続、さらにパワーアップしてやっていただきたいと思う。

5 その他

健康福祉部長) 特定健診の受診率について。

受診率向上を目標に事業を進めてきた。平成20年度は19市中19位で一番低かったが、近年は毎年ひとつずつ順位を上げてきた。そしてついに令和5年度に19市中1番になったということで我々としても本当に感慨深いものがある。これで医療費がぐっと減るということではないが、こういった地道な活動が続けることが最終的に医療費が適正化し、健康で長生きする方が増えてくると思っている。今後も「健康アップ千曲21（第三次）」等に基づき進めていくのでご協力をお願いしたい。

6 閉会あいさつ 塚田副会長